広報

令和３年度　全国学力・学習状況調査のまとめ

富士吉田市教育委員会

本年度実施された全国学力・学習状況調査の結果並びに考察がまとまりましたので、本市の児童（第６学年）の学習・生活状況の概要についてお知らせします。

■実施日時：令和３年５月２７日（木）

■参加者数：小学校７校　児童数３６７名

１　学習の状況について

（１）全体の結果

教科	国語	算数
小６年	全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等

（２）各教科の状況について

○＝平均正答率が高い問題●＝平均正答率が低い問題

	出題の趣旨
国語	○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。 ○思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。
	●目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。 ●文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。
算数	○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる。 ○条件に合う時刻を求めることができる。
	●三角形の面積の求め方について理解している。 ●棒グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。

（３）学習状況の考察

①全体の状況

・教科に関する調査の平均正答率は、国語、算数とも全国・県平均と比べて、±５％の範囲内にあり、ほぼ同等でした。（文部科学省では、±５％の範囲内であれば、差はないものと判断できると示しています。）

・全ての教科において、無回答率の割合は、全国に比べて低いです。最後まで解答しようとする態度が伺えます。

・問題形式では、「記述式」の分野で全国・県平均を下回っていました。

②各教科の状況

○国語

・話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えたり資料を使って話したりするなど「話すこと・聞くこと」については正答率が高いです。

・文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つけたり、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約したりする設問では、文章を読み取りまとめて書くことの正答率が低いです。

・文の中における修飾語と被修飾語との関係を捉え適切なものを選択する設問では全国・県同様正答率が低いです。

○算数

・速さと時間・道のりの関係や棒グラフから数量を読み取ることは、全国・県同様に高い正答率となっていました。

・三角形の面積の求め方では、全国・県に比べて正答率が低くなっています。

・数学的な道筋や考え方を自分の言葉で説明することに課題が見られます。

２　生活習慣や学習環境等に関する結果について（児童質問紙による意識調査）

望ましい状況○　課題と見られる状況●

○毎日同じくらいの時刻に起きている
○自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている
○人が困っているときは、進んで助けている
○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
○人の役に立つ人間になりたいと思う
○学校に行くのは楽しいと思う
○友達と協力することは楽しいと思う
○友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている
○学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている
○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う
○国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている
○算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える
○算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしている
●１日当たり３時間以上勉強する（月曜日から金曜日）
●１日当たり２時間以上読書する（月曜日から金曜日）
●新聞を読んでいる

■主な傾向・課題

・困っている人を助けたり、いじめは許されないなど、高い規範意識を持っている様子が伺えます。
・仲間との協力や学校が楽しいなど、他者との関わりを大切にし、生活している様子が伺えます。
・学級内で言語活動が活発に行われ、互いの関わりを通して、共に成長していこうとする姿勢が表れています。
・最後まで根気強くやり抜こうとする主体的な態度が表れています。
・対話的で深い学びに向けた話し合う力が育っています。

３　今後の取組について（学力の向上に向けて、本市において次の取り組みを推進します。）

○国語の授業において、調べたり読んだりしたことを伝えたり、話し合ったりする学習活動を取り入れ、自分の考えを整理して書くことができるように指導します。
○算数科の授業において、数学的活動（①日常の事象から見いだした問題を解決する活動②算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動③数学的に表現し伝え合う活動）を積極的に行います。
○タブレットを有効的に活用し、協働的な学びを通して、気づき・深める授業を行います。
○個人の学習課題を克服するためにe-ライブラリーやドリルパークを積極的に活用するとともに、県教委「家庭学習のすすめ－学びの甲斐善八か条－」を有効活用していきます。
○富士山学習において自分の住む地域に関する興味・関心を高め、地域行事や地域貢献活動への参加意欲を高揚させます。

自己肯定感や規範意識が高く、夢や希望をもって生き生きと学校生活を送っている子どもたちです。今後も、子どもたちが一層がんばっていけるよう、家庭、学校、地域で連携を深めていきましょう。

問 い 合 わ せ 先
富士吉田市教育委員会
富士吉田市立教育研修所
TEL　0555(22)1111(内線515)
直通　0555(23)1766

広報

令和３年度　全国学力・学習状況調査のまとめ

富士吉田市教育委員会

本年度実施された全国学力・学習状況調査の結果並びに考察がまとまりましたので、本市の生徒（第３学年）の学習・生活状況の概要についてお知らせします。

■実施日時：令和３年５月２７日（木）

■参加者数：中学校４校　生徒数３６５名

１　学習の状況について

（１）全体の結果

教科	国　語	数　学
中３年	全国･県とほぼ同等	全国･県とほぼ同等

（２）各教科の状況について

○＝平均正答率が高い問題　●＝平均正答率が低い問題

	出題の趣旨
国語	○話し合いの話題や方向を捉える。 ○文脈に即して漢字を正しく読む。
	●書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。 ●文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ。
数学	○問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。 ○与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。
	●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。 ●ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現することができる。

（３）学習状況の考察

①全体の状況

・教科に関する調査の平均正答率は、国語、数学、英語とも、全国・県平均と比べて、±５％の範囲内にあり、ほぼ同等です。（文部科学省では、±５％の範囲内であれば、差はないものと判断できると示しています。）

・無回答率の割合は全国に比べて低いです。最後まで解答しようとする態度が伺えます。

・国語の「記述式」が全国・県平均を上回っており、それ以外の分野ではほぼ同等となっています。

②各教科の状況

〇国語

・書いた文章を読み合い構成を工夫するなど、国語への関心、意欲、態度の設問の正答率が高く、意欲を持って課題に対応する力が育っています。

・意見文の語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くでは、低い正当率となっています。

〇数学

・数学的な見方や考え方の問題場面における考察の対象を明確に捉えることについては、全国・県と同様に高い正答率となっています。

・数学的な見方や考え方を用いて説明したり表現したりする設問では、正答率が低くなっています。

２　生活習慣や学習環境等に関する結果について（生徒質問紙による意識調査）

望ましい状況○　課題と見られる状況●

○朝食を毎日食べている
○毎日同じくらいの時刻に起きている
○自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている
○人が困っているときは、進んで助けている
○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
○人の役に立つ人間になりたいと思う
○学校に行くのは楽しいと思う
○友達と協力するのは楽しい
○学級の生徒との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかり伝えていた
○友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている
○学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている
●１日あたりテレビゲームを１時間以上する（月曜日から金曜日）
●１日当たり３時間以上勉強する（月曜日から金曜日）
●１日当たりの２時間以上読書する（月曜日から金曜日）
●新聞を読んでいる

■主な傾向・課題

・困っている人を助けたり、いじめは許されないなど、高い規範意識を持っている様子が伺えます。
・社会とのつながりを持って自らの将来を展望している様子が伺えます。
・仲間との協力や学校が楽しいなど、他者との関わりを大切にし、生活している様子が伺えます。
・学級内で言語活動が活発に行われ、互いの関わりを通して、共に成長していこうとする姿勢が表れています。
・対話的で深い学びに向けた話し合う力が育っています。

３　今後の取組について　（学力の向上に向けて、本市において次の取り組みを推進します。）

○国語の授業において、調べたり読んだりしたことを伝えたり、話し合ったりする学習活動を取り入れ、自分の考えを整理して書くことができるように指導します。
○算数科の授業において、数学的活動（①日常の事象から見いだした問題を解決する活動②算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動③数学的に表現し伝え合う活動）を積極的に行います。
○タブレットを有効的に活用し、協働的な学びを通して、気づき・深める授業を行います。
○個人の学習課題を克服するために e-ライブラリーやドリルパークを積極的に活用するとともに、県教委「家庭学習のすすめ－学びの甲斐善八か条－」を有効活用していきます。
○職業体験、職業ワークショップ事業などのデータバンク化により市内統一のキャリア教育を推進します。

自己有用感や規範意識が高く、夢や希望をもって生き生きと学校生活を送っている子どもたちです。今後も、子どもたちが一層がんばっていけるよう、家庭、学校、地域で連携を深めていきましょう。

問 い 合 わ せ 先
富士吉田市教育委員会
富士吉田市立教育研修所
TEL　0555(22)1111(内線 515)
直通　0555(23)1766